

## 須坂市ほたる公園におけるスギナモ移植の試み

環境部生活環境課 環境政策係

### はじめに

県内でも希少な水草であるスギナモ (*Hippuris vulgaris* L.) は、2008年須坂市生活環境課資料(「スギナモ他所在地」について)<sup>1)</sup>によると、田の神団地内、ほたる公園の小川で自生が確認されていた。しかし近年、ほたる公園での自生が確認できなくなった。このため、2012年9月に報告者らが、須坂市における個体保護を目的としたスギナモの移植を行ったので、その概要を報告する。

### 生育状況と特徴

スギナモ科に属するスギナモは、湖沼や湿原、河川などに生える多年生の沈水・抽水植物。地下茎が匍匐し、節から水中茎が伸びる。葉は1節に6～12個輪生する。止水域では茎の上部が水上に直立する抽水植物となる<sup>2)</sup>。

### 国内および県内分布

国内では、北海道・本州(中部地方以北)。長野県では、下水内、上水内、上高井、下伊那郡で記録があるとされるが、1962年に須坂市で採集された以後、確認されないことから、『長野県版レッドデータブック(維管束植物編)2002』では長野県絶滅とされた<sup>2)</sup>。しかし、2004年に須坂市の5箇所ですギナモの自生が確認され、今後は絶滅危惧種に相当する植物となる。長野県内で確認されている自生地は、須坂市のみであるため絶滅の危険にある<sup>3)</sup>。

### 移植方法

市内の水路(大字小山2552-3(榊北条組前)に生息しているスギナモを採取し、ほたる公園(田の神町5番地)へ移植を行った。

移植前に、採取するスギナモの生息地所有者(榊北条組)の了解と、地域住民の理解を得る為、田の神町区長にほたる公園のスギナモの生息状況と、採取するスギナモの確認を行った。また、町内清掃の際抜き取られることのないよう、田の神区役員会で周知を呼びかける資料を配布した。

2012年9月28日の午前9時から正午にかけて、田の神町区長，長野県環境保全研究所自然環境部の職員立会いの下，報告者らが移植を行った。

午前9時頃，スギナモが繁茂する水路からバケツ10杯分程根から採取し，ほたる公園へ2回運搬した（写真1）。

ほたる公園には，「ごとごと清水」とよばれる湧水があり，周辺は地域住民が水に親しむ場として整備されている。水中には，ヨコエビ類が多く生息していた。小川の水流は緩やかだが，水底が浅く，スギナモが流されやすい状況であったため，水底の土の寄せ集めや，石での固定を行った。（写真2）。

### 移植後の経過

移植後，一時水量が減り，葉が乾いた状態になりそうだったが，2012年11月頃には新たな自生が見られ，翌年1月になっても順調に生育を続けている（写真3）。

### おわりに

今後も引き続き，ほたる公園のモニタリングを行い，生息状況を確認する。

本事業，とりまとめにご協力いただいた田の神町区長，長野県環境保全研究所自然環境部の皆様に謝意を表します。

### 参考文献

- 1) 須坂市生活環境課（2007.7.10）「スギナモの他所在地」について
- 2) 長野県（2002）長野県版レッドデータブック—維管束植物編，297pp.
- 3) 大塚孝一・尾関雅章・宮入英治（2005）須坂市で再確認された長野県絶滅種スギナモ（スギナモ科）の自生。長野県環境保全研究所研究報告，1：63-64.



写真1. 繁茂したスギナモの採取



写真2. 上：移植風景，下：移植後の状態



写真3. 移植4カ月後の生育状況